

妊婦健診で調べる感染症

※これらの感染を調べる検査を実施するかどうかは、医療機関などによって、また、ママと赤ちゃんの経過によっても異なります。

B型肝炎ウイルス

赤ちゃんに感染しても多くは無症状ですが、まれに乳児期に重い肝炎を起こすことがあります。将来、肝炎・肝硬変・肝がんになることもあります。

C型肝炎ウイルス

赤ちゃんに感染しても多くは無症状ですが、将来、肝炎・肝硬変・肝がんになることもあります。

ヒト免疫不全ウイルス(HIV)

赤ちゃんに感染して、進行するとエイズ(後天性免疫不全症候群)を発症します。

梅毒

赤ちゃんの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒を起こすことがあります。

風疹ウイルス

ママが妊娠中に初めて風疹ウイルスに感染した場合、赤ちゃんに胎内感染して、聴力障害・視力障害・先天性心疾患などの症状(先天性風疹症候群)を起こすことがあります。

性器クラミジア

赤ちゃんに感染して結膜炎や肺炎を起こすことがあります。

B群溶血性レンサ球菌(GBS)

赤ちゃんに感染して肺炎・髄膜炎・敗血症などの重症感染症を起こすことがあります。

HTLV-I (ヒトT細胞白血病ウイルスI型)

お母さんがこのウイルスを持っていると、授乳等によって赤ちゃんに感染する可能性があります。

妊娠中の感染予防のための注意事項-11か条

1. 石鹸と流水で、しっかり手を洗ってください。
2. 小さな子どもとのフォークやコップの共有、食べ残しを食べることはやめましょう。
3. 肉は、しっかりと中心部まで加熱してください。
4. 殺菌されていないミルクや、それらから作られた乳製品は避けましょう。
5. 汚れたネコのトイレに触れたり、掃除をするのはやめましょう。
6. げっ歯類(ネズミの仲間たち)やそれらの排泄物(尿、糞)に触れないようにしましょう。
7. 妊娠中の性行為の際には、コンドームを使いましょう。
8. 母子感染症の原因となる感染症について検査しましょう。
9. B群溶血性レンサ球菌の保菌者であるか検査してもらいましょう。
10. ワクチンが存在する感染症(たとえば、麻疹、風疹や水痘)から自分と胎児の身を守るために、妊娠前にワクチンを打ちましょう。※1
11. 自分が十分な抗体を持っていない場合、風疹や水痘などに感染している人には近づかないようにしましょう。※2

※1. 現在妊娠している方は、出産後、なるべく早く次の妊娠までの間にワクチンを打ちましょう。

※2. 感染者に接触した場合はすぐに病院に連絡してください。水痘や麻疹の場合は、すぐに免疫グロブリンの注射をすることで発症を防ぐことができるかもしれません。

